

明治

1868

江戸時代

1603

平安時代

1192

794

藤原信実
順徳天皇
藤原定家

さらしなは心の中の里なれば月見のごとに身を宿すかな
さらしなや夜わたる月の里人も慰めかねて衣打つなり
嵐く吹く山の月かげ秋ながらよもさらしなの里の白雪

905

わが心なくさめかねつさらしなや姨捨山に照る月をみて

古今和歌集

950? ^ 大和物語 v

京都御所

1055? 更級日記

月も出でて闇に暮れたる姨捨
になにとて今宵訪ねきつらむ

藤原定家の書写



豊臣秀吉の和歌

さらしなや雄島の月もよそな
らんただ伏見江の秋の夕暮れ

天皇家の宝物に

1688 松尾芭蕉の更科紀行

1790 寛政の造営

1855 安政の造営



「姨捨の山ぞしづくれる風見えてそよさらしなの里のたかむら」



羽尾村
若宮村
須坂村

月のみか露霜しづれ雪までに
さらしさらせる更級の里

1889 更級郡更級村

1955 戸倉町更級地区

2003 千曲市更級地区



さらしなは純白高貴しゃれこうべ神聖清澄清冽清浄(身清め)
姨捨のやがてメッカに選ばれり月千曲川冠着建部

更級(さらしな)へのあこがれの歴史